

先日まで道路の補修工事をしていた建設会社の作業員が、今日は畑を耕し農作物を収穫する。長引く不況の中、建設業界では新分野に進出する企業が相次いでいる。繰り返される談合による指名停止、公共事業の減少など明るい話題が見られないなか、新分野への進出は、雲が重くたれ込める業界内に明るい光を差し込むことができるのか。

(豊吉広英)

追う

青森県弘前市の中心部から

車で15分。リンゴ畠の間を抜

けた岩木山の麓に並んでいる

のは、小さなビニールハウス

の列、列列。中では、2週

間に植えられたワサビの葉

を広げている。

大場建設は、平成18年から
同じ弘前市内の建設会社「城
開発」とともにワサビ栽培に
参入した。実験的にワサビを
栽培してきた仙台市の建設会
社「東北緑化環境保全」から
勧められたことがきっかけだ
った。商品の販路が確保され
た。

大場建設は、平成18年から

同じ弘前市内の建設会社「城
開発」とともにワサビ栽培に
参入した。実験的にワサビを
栽培してきた仙台市の建設会
社「東北緑化環境保全」から
勧められたことがきっかけだ
った。商品の販路が確保され
た。

土木作業員、今日から畠仕事

建設不況新分野へ

建設不況が続く中、建設業界で新分野進出に生き残りを見いだそととする動きが活発化している。ディサービスなどの福祉事業やリサイクル事業、エネルギー供給事業…。



青森県弘前市東岩木山
二郎ハウスをのぞき込み、「サビの生育を確認する大場市美・大場建設社長。「大間のマグロと一緒に、うちのワサビを売り込みたい」と意気込んでいる

これまで、ワサビのほかにもリンゴやトウモロコシなども手がけてきた三上千春・嶽開発社長。「本当に建设業一本で行きたいけれど…」=青森県弘前市馬鹿町

特に東北各地で多いのは建設業にならぶ代表的な東北の産業の一つ、農業分野への進出だ。大場社長も「もともと、社員の半分は農業にかかわりを持っている人間。ワサビ栽培進出に抵抗感は少なかつた」と話す。

後継者不足とともに高齢化や休耕地の増加に悩む農業界もこうした動きを歓迎しているという。行政側の支援も徐々に整い始めた。青森県では新分野に参入する建設業者には県発注工事の入札審査で評価点をプラスすることを決めた。宮城県でも、相談窓口を設け、将来的に悩む建設業者にアドバイスを行っている。

しかし、新たな道を踏み出さなければならない。お金の大切さを学んだけすることは普通。しかし、農業ではそんな世界はあり得ない。お金の大切さを学んだ「建設業は一件受注すれば1000万、2000万円の利益が生まれ、受注のため000万円や200万円を値下げすることは普通。しかし、建設業で忙しく、収穫日がずれたことから、育ちすぎた商品を市場から突き返されるのが悲しいも味わった。

同社の三上千春社長(47)は

「建設業は1件受注すれば設け、建設業界のバックアップを進めることで、新分野進出を助けたい」という手本を立てた。青森県は、各振興局に新分野進出のための総合相談センターを設置。補助金や融資制度も新設し、建設業界のバックアップ態勢を整えた。

動を進めるためにも、新分野進出を助けたい」という手本を立てた。青森県は、各振興局に新分野進出のための総合相談センターを設置。補助金や融資制度も新設し、建設業界のバックアップ

ていることなどに魅力を感じ、弘前市内に酸素の含有量が多い地下水が吹き出す土地を持つ嶽開発に声をかけた。約1500平方㍍の資材置き場にワサビ栽培用スペースを造り、地下水が流れるように給水パイプを設置したビニールハウスを設置。18年12月28日に苗を植えた。初期投資は約3000万円。再来年には収穫できるようになるといふ。

■先進地は北海道、建設会社の新分野参入で先進地といえば北海道。東北同様、公共事業のウェートが高い土地柄もあり、建設業の地盤沈下が経済に多大な影響を与える中、平成14年から建設業ソフトランディング対策と銘打ち、支援に取り組んできた。

道で公共事業に参入している建設業者1万社にアンケートをとったところ、全体の2割にあたる約2000社が何らかの形で新分野に進出していると回答しているという。

これまで、多くの企業にアドバイスを行ってきた道商工金融課は「建設関係者は、受注を受け、言われた通りに仕事をすることは得意だが、自分から進んで何かをやるというのではなくて経験が少ないと、なかなか難しいようだ」と指摘。「誰を対象に、どのような事業を行うのか、という計画を練り、しっかりとマーケティング戦略を構築することが、新分野で成功する秘訣(ひけつ)」と話している。